実践的な援助の方法とともに、国際レベルの情報交換や地位向上のための共同体としての運動の意義を理解して貰う必要もあるだろう。

☆　日本代表者としての活動

私は IFBLS 理事になって 4 年間、Scientific Commitee の Chair として会の学術分野を担当した。目に見える活動を行うことをテーマとし、Expert group の大幅な拡大と長期計画による教育システムの企画を行った。

◇**Expert group の改革**：人数を増やし、検査部門ごとのメンバーを集め、各国の部門ごとの実態調査を開始した。統計の一部は WEB にて参照可能である。

◇**学会での企画**：2008 年インドにおける学会で、臨床検査技師の現状と未来というテーマでの International symposium と、臨床検査の各国の現状と問題点というテーマでの Asian Symposium を企画し、日本からの演者を推薦した。各国の実態が理解でき、symposium は好評であった。

◇**アジア・太平洋フォーラム出席**：講演者の 1 人として参加した。IFBLS 会長・理事とアジア各国の会長との会見の場が持たれた。

◇ **日本での IFBLS 代表者会議の開催**：年 2 回開催される Chief Delegate meeting(そのうち 1 回は学会中に行われる)を、幕張メッセで開催した。

これは IFBLS の理事がアジアからの代表者が多いため経済効果を鑑みたことと、世界の会長達へ日本の紹介も兼ねて、日本の技師会に開催の企画を打診し、受諾・協力を得たものである。

世界の代表者の日本の技師会に対する信頼度が更に高まったと考える。

◇**IT による教育活動の企画**：e-learning の企画を提案した。Sample 画面で各国から大きな反響があり、世界の基準を目的とした基礎編と、advance level のコースを作ることが提案された。大学教育の一助としての使用やコース終了者に対する終了証明など、未来への構想も出されており、早期の完成が望まれた。

現在は cytology と hematology の一部が完成しているが、今後の教育画面の充実には各国からの資料と、部門ごとにそれをまとめるリーダーが必要である。

◇**EXPERT　group の拡大**：e-learning・e-journal 査読・WHO の discussion への参加と還元など、Expert　group の業務が増加したため Expert group member を大幅に増員をすることとし、各国の代表者に依頼中である。

Expert group の作業に参加することにより、多くの会員に世界の情報交換の担い手になって頂き、国際交流の活性化を図りたいと考える。

② **Expert　group について：**

大幅に拡大し、長期計画での教育と最先端の情報の定期的発信を行う。Expert Group のメンバーは、e-journal 査読、e-learning の資料提供、WHO の dialog 参加と報告等も行うこととなるため委員の増員は急務である。

◆**e-journal**　：2010 年 3 月末に電子投稿による e-journal が開始された。会員の投稿数と投稿レベルにより、impact　factor がおのずと決まってくる。ポイントが上がれば投稿者が増える。会員の皆様の協力を願うところである。

◆**e-learning**：教育用としての e-learning を、基礎と上級レベルとに分け作成する。e-learning は特に形態学において有用である。アクセズ数の確認や正解率と経験年数のアンケートの集計を可能にしたいと考えている。

テストの時点で既に大学での授業で使用したい、終了後の証明の発行など、未来像を提示された現在、10 年先を見据えた、時代の流れに沿ったと着実な計画と確実な実績が必要であり、長期計画となる。

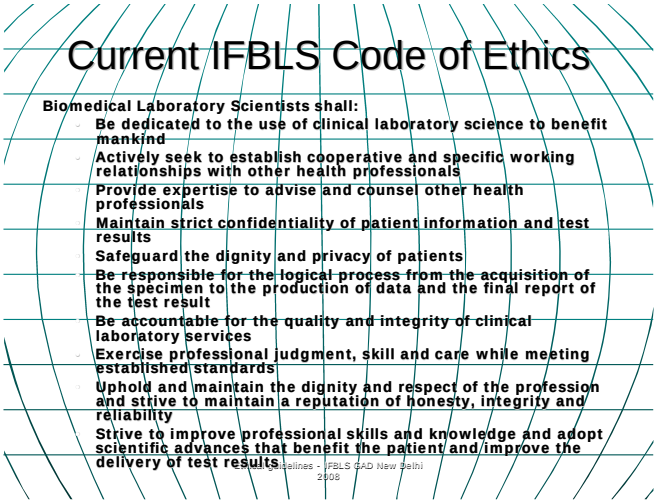
☆　各 group の現在までの報告

・Cytology・Hematology：e-larning の編集を行った。

・Quality Assurance：各国の現状を集約したところである。国による事情の違いがあり、統一することはできなかったが、各国の現状として集約し Home Page に up する予定である。

・Education：各国の教育状態のアンケートを集約している。結果は web に掲載されている。Core curriculum のプログラム作成と発信を検討中である。

・Ethics：昨年度学会でグループディスカッションによる検討がなされ、報告書が挙がっている。



現在の倫理を「医療チームの一員として」、「患者に対して」、「臨床検査技師間で」と倫理を 3 つに分類し、それぞれに対する倫理の詳細が提案された。

これを踏まえ 2010 年の学会では新しい倫理文章の提案を行うこととなる。

③　**Award Committee**

IFBLS は学会の活性化のため以下の賞を設けている。このほかに、学会開催国が賞を出すこともある。

受賞者は IFBLS 学会の opening ceremony で、ポスター賞に関しては closing　ceremony で表彰される。

・Elizabeth Plescher Award：IFBLS の発展ならびに国際活動に貢献のあった人物あるいは技師会に授与される。2004 年には日本臨床衛生検査技師会が受賞した。

・Sysmex　Award：血液部門にて学術的に貢献のあった個人に授与される。

・Nordic Award：国際貢献のあった北欧の技師会に授与される。

・IFBLS Student Award.：学生の参加を補助する目的。技師会が推薦する。

・Past President Award：過去の各国技師会会長を対象にした国際貢献に対する賞である。2008 年インドでは岩田進日臨技前会長が受賞した。

・Poster Award：学会時に優秀と判断されたポスター数点に授与される。

④　**BLS day**

IFBLS は 4 月 15 日を BLS day として WHO の発信するテーマを IFBLS のテーマとして使用し、ポスターを作成している。各国の技師会はそれに独自の方法で協力している。日本の技師会は 4 月を医学検査月間として IFBLS のポスターを取り入れた日本語ポスターを作成し、社会へアピールしている。

⑤　**WHO との連携**

メールによる参加がメインである。WHO からは随時新しいテーマが送られてくる。テーマは臨床検査技師だけを対象にしたものではないが、Patient’s safety, Preventing cancer, Education for hygiene,など我々に深く関るテーマは多い。

“臨床検査技師が行っている！“臨床検査技師でなければできない！“などと appeal することも必要であろう。

テーマは何日かで検討され、1 人 1 人の意見が長い文章で送られてくることや、臨床検査技師に関連した内容の pick　up が必要であること、次々と新しい話題が出され情報量が多いなど、単独での対応は不可能である。Expert group に依頼し、情報の